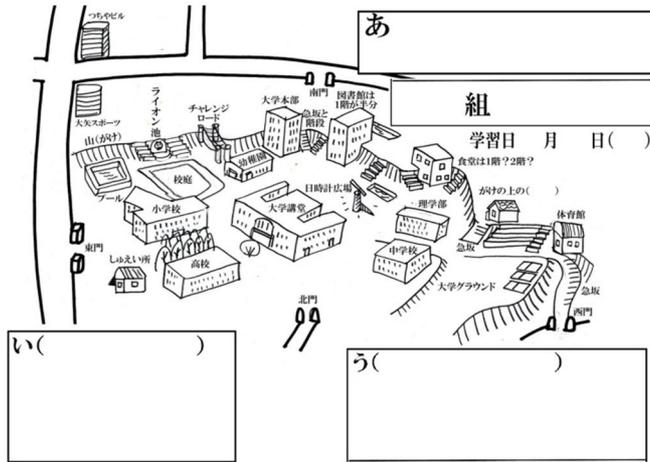


「武蔵野台地とニリンソウ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

武蔵野台地の縁(段丘崖)をまたぎ、2つの浸食谷の源頭(水源)に位置し、さらに人工的に整地されたのが、現在のお茶の水女子大学の土地である。当然ながら構内には坂や階段が多く、3年生社会の「土地たんけん」には、まずもってこいのエリアとなっている。



図は、3年生の1学期の社会の授業で使う、学習シートである(2ページ目に拡大画像)。小石川の浸食谷に位置する小学校や大学講堂の低い土地と、もともとの小石川・目白台地上の理学部や南門の境目の、坂や階段を探しながら、大学構内を一周する学習である。白いのは、大学生協(食堂)や附属図書館は、入口が2階にあることである。

大学構内の坂の中でも、特筆すべきなのが西門の坂である。この坂だけは「武蔵野台地」(小石川・本郷台地)と「音羽低地」の境目である「正真正銘の段丘崖」と言えるからである。「ニリンソウ」の群落は、その崖上の日当たりの良い広場にある。



「ニリンソウ」キンポウゲ科 *Anemone flaccida*

ニリンソウは主として極東に広く分布し、日本でも北海道から九州まで見ることができる。宿根草(多年草)なので、一塊の群落になることが多い。左下の写真のすべてがニリンソウの群落である。名の通り、輪生の葉の間から、2つのつぼみを出し、少し時間差をつけて咲くことが多い。(時々3輪のこともある)白い花卉のように見えるのは、実は萼片である。水平に開いた姿は、白い梅の花にも似ている。



ニリンソウは本来、武蔵野台地ではごく普通に見られた野草である。(写真は新宿御苑のニリンソウ)特に段丘崖に見られるような、やや湿った林床を好む。しかし、最近は群落が次々と姿を消し、23区では準絶滅危惧種に指定されてしまった。大学構内のニリンソウも、みんなで守ってゆきたい種の一つである。

